

## 日本における老年的超越

(内藤俊史・鷲巣奈保子、2021)

高齢になると、身体的にも社会的にも、その活動範囲は狭くなります。しかし、高齢になるに従って、人々や世界についての見方に変化が生まれ、平穏で幸福な日々を送るようになる人々もいます。他の人々や世界に対する感謝のあり方は、このような過程にかかわりがありそうです。世話になっている周囲の人々への感謝、先立った人々への感謝は、それらの人々や(それらの人々を通じて)世界全体との関係を深めるのかもしれませんが。それによって、自分の生の意義を確認することになるかもしれません。

このような観点からみて、興味深い研究が、以下に説明する老年的超越についての日本の研究です。

増井 (2013)によれば、老年的超越 (gerotranscendence) とは、高齢期に高まるとされる、「物質主義的で合理的な世界観から、宇宙的、超越的、非合理的な世界観への変化」を指し、スウェーデンの Tornstam, L. によって提唱されました。高齢期、特に超高齢期と呼ばれる 90 歳以上の人々は、物理的な活動範囲が狭められますが、そのような心理的变化によって、幸福感を得るに至るとされます。

日本における老年的超越に関する研究は、興味深い結果を示しています。

まず初めに、増井ら (2010) は、Tornstam, L. によるインタビューガイドに基づいて日本の高齢者に面接を行い、その結果にもとづいて質問紙を作成しました。因子分析の結果、『「ありがたさ」「おかげ」の認識』を第一因子とする 8 つの因子を見出しました。それらは、おおむね Tornstam が設けたカテゴリーと一致していました

次に、調査協力者の 155 名の超高齢者 (平均 88.4 歳) のなかから、高次の生活のための機能が低い心理的 well-being が高い超高齢者を抽出するために、GDS-5、健康度自己評価、PGC 総得点、老研活動能力指標合計点を用いてクラスター分析を行い、これらの変数に欠損のない訪問調査参加者 (149 人) を分類しました。その結果、低機能高 WB 群は、低機能低 WB と比較して、「無為自然」「社会的自己からの脱却」などの得点が高いという結果が得られました。しかし、『「ありがたさ」「おかげ」の認識』については差が認められませんでした。ただし、第一因子の項目の得点は高く、天井効果の可能性がある(後の論文で尺度の限界を自ら指摘している(増井他、2013))。

注目すべき点は、日本の超高齢者との面接によって得られた次のような内容です。

Tornstam は、「宇宙的意義の獲得」「自己意識の変化」「社会との関係の変化」という三つのカテゴリーを設け、「宇宙的意義の獲得」において、過去、現在、未来の区別の喪失や場所の区別の喪失をあげましたが、日本の場合、それらの回答は得られませんでした。それにかわって、先祖や未来の子孫との

つながりを強く感じるようになるという日本独自の特徴がみられたことを報告しています。

小野・福岡 (2018)は、これらの研究が示すつながりの感覚の意義に着目し、「つながりの実感」という概念の意義を検討しています。ただし、つながりの実感尺度で、感謝の内容が直接的に含まれるのは23項目の一つです(「神仏に感謝することはありますか」)。高齢者後期(75歳から84歳)では、つながりの実感は、ADL老研式活動能力指標を統制した場合、老年的超越(増井らの改訂版日本老年的超越尺度)と有意な正の偏相関、また、超高齢者(85歳から97歳)では、つながりの実感は、同様にADL老研式活動能力指標を統制した偏相関をみた場合、老年的超越と正の有意な偏相関がみられました。

## 文献

増井 幸恵・権藤 恭之・河合 千恵子・呉田陽一・高山緑・中川威・高橋龍太郎・藺牟田洋美(2010). 心理的 well-being が高い虚弱超高齢者における老年的超越の特徴一新しく開発した日本版老年的超越質問紙を用いて. 『老年社会科学』, 32(1), 33-47.

増井 幸恵 (2013). 老年的超越研究の動向と課題. 『老年社会科学』 35(3), 365-373.

増井 幸恵・中川 威・権藤 恭之・小川 まどか・石岡 良子・立平 起子・池邊 一典・神出 計・新井 康通・高橋 龍太郎 (2013). 日本版老年的超越質問紙改訂版の妥当性および信頼性の検討. 『老年社会科学』 35(1), 49-59.

小野 聡子, 福岡 欣治 (2018). つながりの実感および老年的超越からみた後期高齢者および超高齢者の主観的幸福感. 『川崎医療福祉学会誌』 27(2), 313-323.

Tornstam L(1989). Gero-transcendence ; A meta-theoretical reformulation of the disengagement theory. *Aging: Clinical and Experimental Research*, 1 (1) , 55-63.

トーンスタム, ラーシュ (2017). 富澤 公子 (翻訳), タカハシ マサミ. 『老年的超越—歳を重ねる幸福感の世界—』. 晃洋房. (Tornstam, L : *Gerotranscendence ; A Developmental Theory of Positive Aging*. Springer Publishing Company, New York, 2005).

